

要 約

試 験 委 託 者 : 環境省

表 題 : ノニルフェノールのヒメダカ (*Oryzias latipes*)
に対する初期生活段階毒性試験

試 験 番 号 : A 0 3 0 4 3 7

試 験 方 法 :

- 1) 適用ガイドライン : OECD 化学品テストガイドライン No. 210 「魚類の初期生活段階毒性試験」 (1992年)
- 2) 暴 露 方 式 : 流水式
- 3) 供 試 生 物 : ヒメダカ (*Oryzias latipes*)
- 4) 暴 露 期 間 : 43日間 (受精卵から暴露し, 対照区の孵化率が70%以上になった日の30日後まで)
- 5) 試 験 濃 度 : 対照区
(設定値) 助剤対照区
濃度区 1 0.0050 mg/L
濃度区 2 0.013 mg/L
濃度区 3 0.035 mg/L
濃度区 4 0.094 mg/L
濃度区 5 0.25 mg/L 公比 ; 2.7
助剤濃度一定 ; N,N-ジメチルホルムアミド ; 約100 μ L/L
- 6) 試験液供給量 : 約48 L/容器/日, 試験容器内水量 ; 約2.5 L
(換水率 ; 約19回/日)
- 7) 連 数 : 3容器/試験区
- 8) 供 試 生 物 数 : 60個体/試験区 (20個体/容器)

- 9) 試験温度 : 卵・胚期 ; 24 ± 1 °C
仔魚・稚魚期 ; 23 ± 2 °C
- 10) 溶存酸素濃度 : 飽和濃度の60%以上に維持した (エアレーションなし)
- 11) pH : 試験液のpH調整は行わなかった
- 12) 照明 : 室内光, 16時間明 (1000 lux以下) / 8時間暗
- 13) 給餌 : 仔魚・稚魚に対してBSN* を1日1~2回飽食量与えた
* ; 孵化直後のブラインシュリンプ^{*} 孵化幼生
- 14) 分析法 : 高速液体クロマトグラフィー (HPLC)

試験結果 :

1) 試験液中の被験物質濃度

試験液の分析の結果, 測定値の設定値に対する割合は, 暴露期間を通じて 84~108%であった。また, 各濃度区の測定値はいずれも平均測定値の $\pm 20\%$ 以内に維持された。結果の算出には平均測定値を用いた。

- 2) 最小作用濃度 (LOEC) : 0.0873 mg/L (=濃度区4)
- 3) 最大無作用濃度 (NOEC) : 0.0333 mg/L (=濃度区3)